

研修だより

矢島小学校

No.26

05.10.27

大石田小の実践に学ぶ その1

10月12日（水）山形県大石田小学校を訪問させていただきました。大石田小は、平成13～14年度に文部科学省の人権教育研究校の指定を受けた学校です。公開当時の教頭と研究主任が、現在はその学校に在籍していないにもかかわらず、私たちのために大石田小に来て、説明してくださいました。

大石田小は、指定を受けるまで、算数の研究をしていました。研究初年度は、算数を中心に人権教育をスタートさせたそうです。（本校と事情がソックリです…）

でも、その年の後半から、国語、道徳、学級活動の3つを研究の窓口に変えました。

基礎教科の代表としての国語、心を育てる教育としての道徳、高まった意識を実践につなげるものとしての学級活動、という位置づけです。

多少の違いはありますが、本校の構想する人権教育と近いものがあると思います。

研究の視点を見ると、共通性がよくわかります。」

【 研究の視点 】

- 1 互いの考えを出し合い学びあえるような学習活動のあり方（国語科を中心に）
- 2 人権意識を高める学習のあり方（道徳を中心に教育活動全体を通して）
- 3 異年齢交流をはじめ、立場の異なるいろいろな人との温かい人間関係を築く交流のあり方（特別活動を中心に）

国語科では、①発表する場を計画的に設定して話す力・聞く力を育てる。

②励ましの朱筆、相互評価、TTなどにより、一人一人を大事にした支援と評価を行う。

③互いに学び合える学習形態の工夫

等を重点施策にしています。これも大いに参考になる実践だと思います。

印象的だったのは

あたたかい空気、あたたかい風が流れている学校

という言葉でした。